全国保健師長会千葉県支部だより

令和７年度 第３号 令和８年２月２０日発行

１ 千葉県支部長あいさつ

今年度も残すところ約１か月となりました。麻疹患者の発生等における感染症対策をはじめ、災害時保健活動における備え、少子高齢化の進行における課題、その他様々な課題に直面しています。現場を支えるリーダーとしては、後輩の育成や組織づくり、多職種との連携など、多方面で力を発揮していることと思います。全国保健師長会千葉県支部では、統括的な保健師の横のつながりを強化しながら、変わりゆく健康課題に対峙する新たな手法による保健師活動、人材育成など共に考える場としていきましょう。

先日開催した研修会には２１名が参加され、講師のお話もわかりやすく、「具体的なコミュニケーションスキルを聞けてよかった」等の声が多く、またグループワークでは和気あいあいと会話ができ参加者には満足していただきました。これからの時代を担う若い保健師等が安心して成長できる職場環境づくりも、私たちの大切な役割です。一人ひとりの力を結集し、地域住民の健康と暮らしを守る活動を、着実に前へすすめていきましょう。

全国保健師長会千葉県支部長　鈴木麗子

２ 令和７年度第２回全国保健師長会 千葉県支部研修会報告

開催日時：令和８年１月３１日（土）
　　１３時３０分～１５時３０分
会　　場：プラザ菜の花２階 PalA・B
講　　演：「『共感力』はビジネススキル
　　～心理的安全性の高い職場環境づくり～」
講　　師：株式会社インソース　内田　裕子氏

今回の研修では、いかに風通しのよい職場をつくるかがリスクマネジメントにつながるというお話を伺いました。グループ演習をしながら、先生から教えて頂いたリーダーとして部下・後輩と関わる上でのポイントを、５つお伝えします。

① 不安にさせない。安心させる行動をする

不安になると感情的になり、不信感を抱きます。疑心暗鬼になるため、安心させる行動をすることが重要です。まず、言い分や事情を聴くこと。次に共感すること。最後にポジティブでモチベーションを高める声かけをするとのことです。仕事のできる人ほど最初に解決策を言ってしまう傾向があり、攻撃的に言ってしまうと「私とあなたは違う…」と心のシャッターを閉じられてしまうようです。

② 働く人の深層心理は『み・ほ・こ』さん

働く人は（み）認めて欲しい、（ほ）褒めてほしい、（こ）肯定してほしい、と思っているので、リーダーが（み）認める、（ほ）褒める、（こ）肯定する人だと、やりがいが上がり、一緒に仕事がしたいと思うとのことです。アメリカの研究では、褒める：叱るを、６：１の割合ですることにより、いざ叱った時に耳を傾けるようになるという報告があるそうです。

③ ポジティブワード『かみさまナイス！』

『かみさまナイス』は、ポジティブワードの最初の一文字です。コミュニケーション上手の共通点は、言葉のボキャブラリーが多いとのことですが、いくつ思い浮かびますか？以下に例を記載します。

か：関心した、感謝してる、感がいい、完璧、神
み：見事だね、皆な嬉しいと思う、見違えた
さ：さすがだね、最高、冴えてる、サンキュー
ま：任せてよかった、前向き、またよろしくね
ナ：ナイスだね、納得できるね、並大抵じゃない
イ：いいね、いつもありがとう、一緒に頑張ろう
ス：素晴らしい、スピーディー、素敵、すごい　など

④ 意識のアップデート

コミュニケーション＝相手と自分とのギャップを知ること、自分の常識は相手の常識とは違うということに立ち返ることが大切です。例えば否定されることに慣れていない世代は、受けてきた教育が違う（多様性の教育）のです。相手が過ごしてきた時代背景を踏まえて、なぜそのような考え方を持つようになったのかを理解し受け容れられるよう、私たちは変わり続け、意識のアップデートが重要とのことでした。

⑤ 「聴き役」から「話させ役」へ

叱られた時に残念に思うのは、念が残っているからだそうです。愚痴を話させて念を発散させるとスッキリします。「相手が安心して話すこと」を主軸に捉えると誠意が伝わるとのことでした。　（報告者　岸田裕子）

３ 令和８年度 全国保健師長会千葉県支部総会・研修会のお知らせ

予定に入れておいてくださいね

日　時：令和８年５月１６日（土）13:30～16:00 予定
会　場：千葉市文化センター9 階会議室 II